

グリーン四国

四国森林管理局

高知市丸ノ内1丁目3-30

TEL 088-821-2052

FAX 088-821-4834

ホームページアドレス <http://www.rinya.maff.go.jp/shikoku/>

電子メール shikoku_soumu@rinya.maff.go.jp



四国山の日

No.1124 2013年11月号

「四国の森づくりin徳島2013」開催

10月12日、13日の両日、徳島県那賀町において、「四国の森づくりin2013」を開催しました。 【詳細は2頁】



鶴見四国森づくり実行委員長開会の挨拶



基調講演：「地域資源は宝の山」



分科会：「木材市場見学」



雲ひとつない晴天となつた一〇月二二日、一三日の両日、徳島県那賀町において、四国の森づくり実行委員会、四国の森づくりin徳島実行委員会主催によ



地元青年団による人形浄瑠璃

る「四国の森づくりin徳島2013」が「山村社会のにぎわい」と「多様な森林の形成」をめざして『をテーマに開催されました。このイベントは、平成一六年度に四国四県と四国森林管理局が行った「四国の森づくりに関する共同宣言」に基づき実施されており、今年で一〇回目の開催となります。

初日は、鎌瀬農村舞台での地元の青年団による人形浄瑠璃で幕が開けました。その後、式典会場である

その後、式典会場である



四国山の日賞受賞者

相生ふるさと交流館のホールに場所を移し、「四国山の日賞」の表彰を行いました。受賞団体は次のとおりです。

- 森林整備部門
- ・高知県緑サポーター会 (高知県)
- 木材利用部門
- ・株式会社ウッドピア (徳島県)
- 森林環境教育部門

・川田中緑の少年隊 (徳島県)

・土庄町大部財産区 (香川県)

・愛治緑の少年団 (愛媛県)

・喜多地区林業研究グループ (愛媛県)

・プ連絡協議会 (愛媛県)

・新木局長による受賞団体への表彰状授与の後、受賞

団体を代表して、三団体が

日頃の取組について報告を

行いました。



分科会の様子 (シカ車座)

続いて、「地域資源は宝

の山」と題して、徳島県上

勝町で日本料理を彩る季節

の葉や花、山菜などの「つ

まもの」を販売する「葉っ

ぱビジネス」を考案した横

石知二氏による基調講演が

行われ、タブレット端末を

高齢者が上手に活用する様

子などユーモアを交えた話

に耳を傾けました。

その後、地元那賀町の森

林管理受託センター室長で

ある山本賢明氏による「那

賀町の森林・林業の現状と

今後の方策」について講演

がありました。

二日目は、「搬出間伐・

木材市場現場見学」、「紙漉

き体験」、「森の健康診断」、

「山のシカ食害を考える」

の四分科会に分かれ現場の

視察と意見交換を行いました。

二日間とも天候に恵まれ、夜の懇親会を含め、四国

県の森づくりについて、より交流を深め、連携をしていこうと確認して、有意義な二日間が終了しました。

「千本山と森林鉄道遺産を訪ねて」

〜森林ふれあい推進事業〜

〈技術普及課〉



一月七日、高知県馬路

村において、昭和三八年に

廃線となった魚梁瀬森林鉄

道の遺産と魚梁瀬千本山

有林を訪ねるツアーを公募

による二四名の参加を得て

開催しました。当日は、ス

タッフとして、「馬路村公認

むらの案内人クラブ」に協

力をさせていただきました。

参加者は、バスの中で

「中芸地区森林鉄道遺産を

保存・活用する会」が作成

したビデオを見て、森林鉄

道の歴史について学びなが

ら、最初の目的地に向かい

ました。

安田川沿いの森林鉄道遺

産の明神口橋とオオムカエ

隧道では、バスから降りて

先達の施工技術などについ

て、むらの案内人の清岡さ

んより詳しい説明を受け、

建設に携わった人々の苦勞

や森林鉄道が走っていた時

代の村の繁栄が偲ばれまし

た。また、釜ヶ谷棧道や魚

梁瀬ダム展望台でも、説明

を聞きながら見学しまし

た。

それぞれの目的地に向か

う車中でも、案内人の清岡

さんから馬路村の今昔や森

林・林業の歴史などについ

て説明があり、そのユニー

クナ話しぶりに笑いが絶え

ませんでした。

魚梁瀬の丸山公園では復

元された森林鉄道に希望者

が体験乗車し、弁当を食べ

た後、最後の目的地である

千本山ヤナセスギ林木遺伝

資源保存林を目指しまし

た。

千本山では、登山口にあ

る森の巨人たち百選に選

ばれた「千本山

橋の大杉」を見

学した後、標高

九〇〇mにある

展望台を目指し

て出発しました。

天気にも恵まれ

て参加者全員が

展望台まで無事

登ることができ、

樹齢二〇〇年

の

森林鉄道体験乗車

千本山橋の大杉（森の巨人たち100選）



の樹齢二〇〇年



森林鉄道体験乗車



台風の影響により一週間延期となった「伊予之三名島古事の森」の森づくり活動を一月二日に愛媛県久万高原町のサル谷山国有林（石鎚山系の中腹）で実施しました。



倒れた木を起こす作業の様子

この活動は、松山城や道

後温泉本館など木の文化を象徴する伝統的な木造建造物の修復材確保を目的に、

伊予之三名島古事の森育成協議会との協定に基づき、

平成一九年度から取り組んでいるものです。七回目となった今年は、一般公募による参加者一二名を含む総勢一五名の参加となりました。

まず、育成協議会の会長である愛媛大学江崎名誉教授から、「伝統的な木造建築物の定期的な修復



森づくり活動に参加された皆様

に必要な資材を安定的に供給するための取組であり、本日行う森林整備は私たちの孫やひ孫に役立つ有意義な作業です。」との挨拶があり、その後作業に取りかかりました。今回は、主に雑草木の刈り払いと、植生保護管（ヘキサチューブ）を外し

た後に倒れてしまった植栽木を起こす作業を行いました。驚きの声が聞かれました。今後も、支柱を使った

参加者の中には、第一回目の植樹に参加していた方がおり、「あれから数年経つが、植栽木より雑草木がこれほど大きくなるとは知らなかった。」と



一〇月二日から三日にかけて鹿児島県の准フォレスト一行九名が来高し、四万十署管内の新道山国有林及び嶺北署管内の「高知おおとよ製材（株）」を視察しました。さらに、一〇月二日の夕方には、当局や高知県の准フォレスト等と交え、鹿児島県におけるフォレスト育成活動の取組、コンテナ苗を活用した密着造林の手法や森林作業

当局・高知県・鹿児島県
准フォレスト―等意見交換会



道の作設など最近の林業情報について意見交換を行いました。日程の都合で多くの時間を取れませんでした。活発な意見交換ができ、有意義な時間になりました。

また、四万十署管内の架線及び路網を使った搬出間伐箇所では、あいに

く架線は設備中でしたが、説明にあたった四万十署の職員に索張方法や壊れにくい森林作業道の作設等多くの質問が出され、准フォレスト―としての意識の高さが感じられました。

今後とも交流等を通じて技術の研鑽に努めていきたいと思えます。



一〇月一四日、恒例となりました「秋期緑の街頭募金」が、「緑の募金でふせごう地球温暖化」の

スローガンのもと、公益社団法人高知県森と緑の会主催により、高知市の中央公園及び帯屋町筋で



間伐作業、森林作業道作設等の現地視察

行われました。

出発式の後、新木局長を初め約五〇名の街頭募金協力者が参加し、アーケードを歩き交う人々に大きな声で募金の協力を呼びかけると共に、森林の大切さや、この募金が森林づくりに活かされていることなどを訴えました。

当日は日差しが強く、汗ばむような陽気でしたが、休日ということもあり、子どもから年配の方まで、募金への呼びかけに応えていただき、たくさんの方の善意が寄せられました。

この「緑の募金」は高知県内の森づくり活動などに役立てられるほか、国際緑化事業など様々な

事業に活用されることになっていきます。



緑の募金出発式
(右から二番目新木局長)



子ども達も活躍

各地のたより



松野西小学校の

校庭は昆虫博物館

〈ふれあい推進センター〉

九月二七日、愛媛県松野

町立松野西小学校四年生

二五名を対象に「治山模型



我こそはと珍虫を探す子どもたち

まず、治山模型を使って「森林のある山」と「森林のない山」を再現

「野菜」や「枯葉」、「ペツ

て、珍虫のショータイムが

いました。

を使った水の浸透実験」と「土壌にすむ生物」の出前授業を行いました。年間六回の授業もはや四回目、子どもたちも総合学習の時間を待ちかねているらしく、町内で出会うと「次はいつ来るの?」「何をやるの?」と声をかけてくれます。

「森林のない山」の模型からは、いつまでも濁った水が溢れるように流れ、その様子を目の当たりにした子どもたちは、「すごい、すごい!」と前のめりになって二つのビーカーを見比べていました。

捕まえた虫たちを持って教室に戻ると、目の前の生物の正体を一所懸命突き止めようと図鑑片手に顕微鏡を凝視。

一〇月一〇日、愛媛県松野町立松野西小学校の四年生二五名を対象に、今年度五回目となる森林教室(炭焼き体験)を行いました。



し、ジョウロで雨を降らせ、森林の働きを実証しました。

トボトル」土壌生物によってどのように変化するかを確認は、皆静かに観察して

始まりました。もともと大きなカブトムシの幼虫を拡大すると、赤い斑点や毛、湿って光る胴体が一層鮮やかに見え、再び教室は絶叫の嵐、皆、鳥肌を立てて喜んで(!?)いました。

子どもたちって、本当に虫が大好きですね。

「白炭の音色を楽しむ」



始めに、スライドを使って炭の種類や利用法を説明し、白炭と黒炭を使つた実験をしました。ノコギリを使つての切断では、黒炭は簡単に切れるのに、白炭は堅くて時間をかけないとなかなか切れず、黒炭との違いに驚いていました。また、白炭を木の棒でたたいて、「チンチ

ン」と鉄琴のような綺麗な音色がするのを楽しみました。続いて、炭焼き体験では、児童達は、職員から手順や注意点を聞き、ブリキ缶の中に、もみ殻とマツボックリやドングリ、折り紙で折つた鶴や手裏剣など自分達で作つた物を詰めて、ドラム缶のたき火の中へ並べました。そして、アルミホイルに包んだサツマイモが炭になるかについての実験もしました。たき火に入れて、約三〇分たつた頃、ブリキ缶から出る煙の色が透明になる一方で、児童達はアルミホイルの中心が気になる様子でした、

どちらもたき火の中から取り出し、ブリキ缶が冷めるのを待つ間にアルミホイルを開けると、サツマイモは皮等の表面だけが黒く焼け、残念ながら炭にはならず、焼き芋となり、みんな美味しく食べました。焼き芋を食べ終わる頃に、冷えた缶を開けると、折り鶴や手裏剣、ドングリ、マツボックリなどはちゃんと炭になっていました。なお、今年最後の六回目となる八面山登山は、十一月に実施し、樹木の紅葉等を楽しみ予定です。



「八面山山頂」

また、遠くに見える三本杭(滑床山一、二六六m)が、土佐藩と宇和島藩と吉田藩とがそれぞれ領地の境として杭をたてたことから「三本杭」と呼ばれるようになったこ



一〇月一九日、高知県宿毛市立小筑紫小学校で五年生一二名を対象に本年度四回目の森林教室「八面山登山」を実施しました。

準備運動の後、登山口を出発し、歩道沿いの樹木やニホンジカの食害などを学習しながら、約一時間で八面山山頂(一、一六五m)に到着しました。山頂では、ここが高知県と愛媛県の県境であることと話をし、登山の疲れも忘れて驚きの声が聞かれました。

とを話すと、驚いていまし
た。

その後、そこから続くブ
ナ林に到着し、ネイチャー
ゲーム「カモフラージュ」
と「フィールドビンゴ」を
楽しみました。

児童達は、八面山登山、
森林教室、ネイチャーゲー
ムを通じて、森林の働きと
大切さを学び、忘れられな
い秋の思い出となったこと
でしょう。



一〇月一八日、岩佐の関
所ノ段ノ谷山で、高知県室
戸市立佐喜浜小学校三々四

年生一五名と保護者四名を
対象に、親子山の学習を実
施しました。

この親子山の学習は、地
域の自然や歴史と文化につ
いて学ぶ事を目的として毎
年実施しているものです。

今回も事前に資料を渡し
学習してもらい、実際に史
跡、樹木を比べながらの学
習となりました。

岩佐の関所においては、
関所の役割、参勤交代の目
的の説明、近くにある「子
育て幽霊」の墓の見学など
をしました。また今回は、
佐喜浜小学校の歌詞にあ
る、岩佐の清水で校歌を合
唱し、歌詞の内容の意味を
実感していました。

その後、野根山街道沿い

岩佐の関所跡での説明の様子



の佐喜浜地区を一望できる
場所で昼食を取った後、天
然杉のある段ノ谷山を指
して歩き、道中特徴的な樹
木の説明や、イノシシの沼
田場（ぬたば）の説明をす
ると、初めて見たのか歓声
をあげていました。

野鳥観察ではバードコー
ルを夢中で鳴らし、それに

野鳥が応える場面もあり、
野鳥を身近に感じていまし
た。

段ノ谷山では三年生が作
成した「木化け杉」「カニ
杉」の看板の取り付けを
行った後、天然スギの名前
の由来などを説明しながら
下っていきました。児童は、
天然スギの個性ある姿にお
どろいたり、メモをとった
りしていました。

下山後、感想を聞いたと
ころ口々に「楽しかった」
と笑顔で答えてくれまし
た。

今回の山の学習で自分た
ちの住む地域の歴史を学ん
だり、普段触れることにな
い樹木や野鳥などを観察す
ることで、とてもよい経験

になったのではないかと思
います。

※佐喜浜小学校歌詞

岩佐の清水絶え間なく
流れてついに海となり
佐喜浜の砂つもりては
野根の山ともなりぬ



岩佐の清水で校歌合唱



た歴史ある街道です。

今回のルートは、北川

村の野川林道から出発し、

装束峠、宿屋杉、米ヶ岡

までの一〇・六kmのコース

となり、生徒を二班に分け、

野根山街道の史跡や代表的

な樹木の説明、野鳥観察を

しながら散策しました。

道中、変わった形をした

樹木や、動物が虫や汚れ

を落とすために泥を浴びる

沼田場の説明をすると初め

て見たのか歓声を上げてい

ました。

また、街道にある史跡の

名前の由来や、妖怪伝説を

説明し、自分の住む地域の

歴史を勉強してもらいまし

た。

りしたバードコールを配布

すると夢中で音を鳴らして

いました。バードコールに

野鳥が応える場面もあり、

野鳥を身近に感じることが

できたのではないかと思ひ

ます。

今年も児童はとても元気

で、最後に長い下りが数キ

口続く箇所でも、弱音を吐

かず楽しそうにしゃべりな

がら歩いていました。

下山後、感想を聞いたと

ころ口々に「初めて見たも

のが多く楽しかった」と笑

顔で答えてくれました。ま

た保護者の中には小学生の

頃、四郎ヶ野峠から出発す

る、約二〇kmのルートを散

策した人もおり「今回の

も聞かれました。

野根山街道散策を通じ

て、児童達は普段ふれるこ

とのない樹木や野鳥を観察

することで、より自然を身

近に感じることができたよ

うでした。また、長くてき

つい道のりの中、友達同士

で励まし合ったり、親子で

ふれあったりするなど、良

い思い出作りの機会になっ

たのではないかと思います。



宿屋杉の前で“はい”ポーズ